

街なか通信 かたりば 第3号

町では、今年度から街なかの活性化を図るための各種取組みの検討を開始しました。今回、第1回分科会を開催しましたので、その概要をお知らせします。

第1回分科会

日 時：令和4年9月13日（火） 19時～21時

場 所：下仁田町役場 201会議室

内 容：事前意見交換会で出たキーワードの深掘り ほか

参加者：分科会員 9名（町内在住者、ねぎとこんにゃく下仁田奨学金生、移住者ほか）

■ 当日の内容

1. 町からの報告

分科会の位置付け、検討の進め方 ほか

2. グループワーク

参加者を2班に分けてキーワード※についてグループワークを実施

※検討したキーワード

- | | |
|------------|------------|
| ① 居住・子育て環境 | ④ 食文化 |
| ② 公園・多目的広場 | ⑤ 景観整備 |
| ③ 憩いの場 | ⑥ 空き家・空き店舗 |

■ グループワークの様子

たくさんの意見やアイデアが出るなど、活発な意見交換の場となりました。



各自の意見を発表する参加者



熱心に議論を行う参加者



検討結果の発表

■ 主な意見等

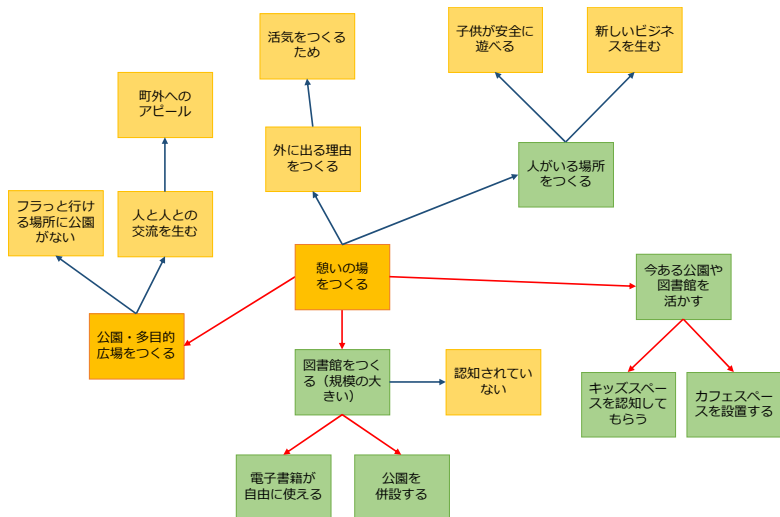
1. 居住・子育て環境を良くするには、若い人（特に20～30代）に対するブランディングを行い、まずは下仁田暮らし・移住の興味を高め、**街なかの居住者を増やすことが重要**だという意見が出ました。
2. 公園・多目的広場や憩いの場があると、**①人と人の交流が生まれるほか、②人が外出する理由にもなり、③人が集まることで新たなビジネスも生まれる可能性がある**、といった意見が多数出て、議論が盛り上がりました。
3. 空き家や空き店舗を利活用するためには、そのメリットを打ち出すほか、**新規出店者がチャレンジしやすい環境の整備**を求める声が上がりました。

➡ **これまでの検討結果を取りまとめ、次回分科会では、今後取り組むべき事業の方向性について、ご意見をいただく予定です。**

【概要版】グループワークの結果（一例）

1班

テーマ:公園・多目的広場、憩いの場

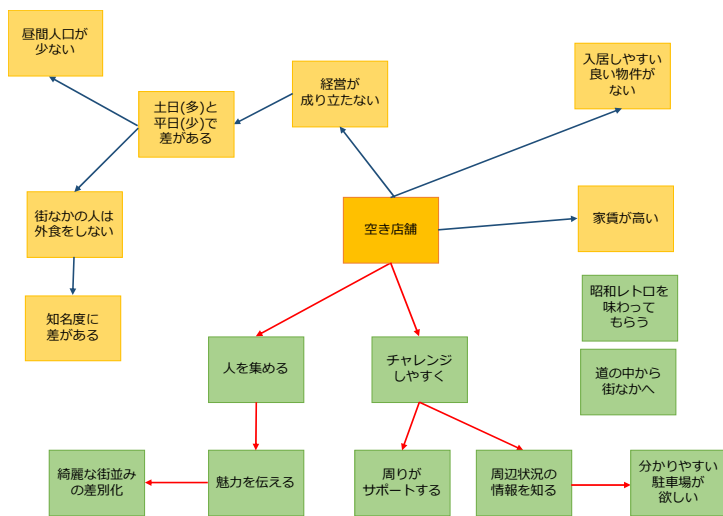


【主な意見】

- ・憩いの場として公園をつくる。街なかに公園があると、ふらっと行けることができ、人と人との交流が生まれる。町外へもアピールができる。
- ・そもそも外に出るきっかけを作らないと、活気は生まれてこないの、憩いの場が必要。
- ・ビジネスを生むためには、人と交流する必要があり、憩いの場を作るべき。
- ・子供の遊び場がないので、人が出会わないことから、憩いの場を作るべき。
- ・憩いの場として図書館が適しており、公園を隣接させてみては。
- ・図書館には電子書籍を自由に使えるようにする。
- ・現在ある図書館は認知度が低い。
- ・今ある図書館を活かす（上記が問題）。
- ・図書館にはカフェやキッズスペースを設ける。

2班

テーマ:空き店舗の利活用



【主な意見】

- ・学校や職場が町内になく、町を出る若者が多く、子供減少し、空き家が増える。
- ・高崎市や富岡市と土地の相場が変わらないため、他の土地に移ってしまう。
- ・電車が不便で車での移動が多いことから、コミュニティが形成されにくく、人との付き合いもないことから、空き家が増える(?)。
- ・空き家を活用するメリットがない(税制等)。空き家を減らすためには関係人口を増やす必要がある。
- ・空き家や空き店舗の対策としては、人を集める必要があるの、魅力を高める必要がある。街並みが綺麗、自然が豊か、昭和レトロ等での差別化を図る。
- ・土日と平日のポラティリティが高く、特に平日の昼間人口が少ないことから、経営が成り立たない空き店舗が増加。良い物件も少ない。
- ・周り(行政?)がサポートし、もっとチャレンジしやすいようにすべき。
- ・周辺情報をわかりやすく出す(駐車場とかが分かりづらい)。